

個人情報に関する基本規程

しんぜん訪問介護ステーション

個人情報に関する基本規程

第1章 総 則

(目的)

第1条 本規程は、社会福祉法人親善福祉協会 しんぜん訪問介護ステーション（以下「ステーション」という。）が保有する利用者（以下「本人」という。）の個人情報につき、個人情報の保護に関する法律（以下「個人情報保護法」という。）その他関連法規及び介護保険法等の趣旨の下、これを適正に取り扱い、ステーションが掲げる「個人情報に関する基本方針」がめざす個人の権利利益を保護することを目的とする基本規程である。

(定義)

第2条 本規程において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

1 個人情報

生存する個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの及び他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別できるものをいう。

本人が死亡した後においてもその本人の情報を保存している場合及びその情報が同時に遺族等の生存する個人情報と関連がある場合には、個人情報と同様に取り扱う。

2 個人情報データベース等

個人情報を含む情報の集合物であつて、次に掲げるものをいう。

イ 特定の個人情報を電子計算機を用いて検索することができるように体系的に構成したもの

ロ イに掲げるもののほか個人情報を一定の規則に従って整理することにより特定の個人情報を容易に検索することができるように体系的に構成した情報の集合物であつて、目次、索引その他検索を容易にするためのものを有するもの

3 個人データ

個人情報データベース等を構成する個人情報をいう。

4 保有個人データ

ステーションが、開示、内容の訂正、追加又は削除、利用の停止、消去及び第三者への提供の停止を行うことのできる権限を有する個人データであつて、個人情報保護法第2条第5項の「保有個人データ」をいう。

5 本人

個人情報によって識別される特定の個人をいう。

(基本理念)

第3条 ステーションは、個人情報、個人の人権の理念の下に慎重に取り扱われるべきものであることに鑑み、その適正な取扱を図るものとする。また、職員は利用者に関するプライバシーの保護に配慮し、そのための環境を整えるよう努力する。

(適用範囲)

第4条 本規程は、コンピュータ処理がなされているか否か、及び書面に記録されているか否かを問わず、ステーションにおいて処理される全ての利用者の個人情報、個人データ及び保有個人データ（以下「個人情報等」という。）の取扱いにつき定めるものとする。

第2章 個人情報等の取扱いについて

第1節 個人情報等の利用について

(利用目的の特定)

第5条 ステーションは、個人情報を取扱うに当たっては、利用の目的（以下「利用目的」）という。）をできる限り特定するとともに、それを公表する。

2 ステーションは、利用目的を変更する場合には、変更前の利用目的と相当の関連性を有すると合理的に認められる範囲を超えて行わない。

(利用目的による制限)

第6条 ステーションは、あらかじめ本人の同意を得ることなく、前条の規定により特定された利用目的の達成に必要な範囲を超えて、個人情報を取り扱わない。

2 ステーションは、合併その他の事由によりほかの個人情報取扱事業者から事業を承継することに伴って個人情報を取得した場合は、あらかじめ本人の同意を得ることなく、承継前における当該個人情報の利用目的の達成に必要な範囲を超えて、当該個人情報を取り扱わない。

3 前2項の規定は、次に掲げる場合については、適用しない。

イ 法令に基づく場合

ロ 人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難である場合

ハ 公衆衛生の向上のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難である場合

ニ 国若しくは地方公共団体に協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼす恐れがある場合

(適正な取得)

第7条 ステーションは、偽りその他不正の手段により個人情報を取得しない。

(取得に際しての利用目的の通知等)

第8条 ステーションは、個人情報を取得した場合は、あらかじめその利用目的を公表している場合及び取得の状況からみて利用目的が明らかであると認められる場合を除き、速やかに、その利用目的を本人に通知し、又は公表する。

2 ステーションは、前頁の規定にかかわらず、本人との間で契約を締結することに伴って契約書及びその他の書面（住民票、通帳、年金手帳等、或いは電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録を含む。以下この頁において同じ。）に記載された当該本人の個人情報を取得する場合その他本人から直接書面に記載された当該本人の個人情報を取得する場合は、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示する。

3 ステーションは、利用目的を変更した場合は、変更された利用目的について、本人に通知し、又は公表する。

4 前3頁の規定は、次に掲げる場合については、適用しない。

イ 利用目的を本人に通知し、又は公表することにより本人又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害する恐れがある場合

ロ 利用目的を本人に通知し、又は公表することによりステーションの権利又は当該事務の遂行に支障を及ぼす恐れがある場合

- ハ 国若しくは地方公共団体に協力する必要がある場合であって、利用目的を本人に通知し、又は公表することにより当該業務の遂行に支障を及ぼす恐れがある場合
- ニ 取得の状況からみて利用目的が明らかであると認められる場合

(第三者提供の制限)

第9条 ステーションは、次に掲げる場合を除くほか、あらかじめ本人の同意を得ないで、個人データを第三者に提供しない。

- イ 法令に基づく場合
 - ロ 人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難である場合
 - ハ 公衆衛生の向上のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難である場合
 - ニ 個人情報保護の保護に関する法律第23条第2項ないし同第4項(共同利用)の方法による場合
- 2 ステーションは、個人データの第三者提供について本人の同意があった場合で、その後、本人から第三者提供の範囲の一部についての同意を取り消す旨の申出があった場合は、その個人データの取扱については、本人の同意のあった範囲に限定して取り扱う。

第2節 個人情報等の登録・保管・廃棄について

(データ内容の正確性の確保)

第10条 ステーションは、利用目的の達成に必要な範囲内において、個人データを正確かつ最新の内容に保つように努める。

(安全管理措置)

第11条 ステーションは、取り扱う個人データの漏えい、滅失又は毀損の防止その他の個人データの安全管理のために必要かつ適切な措置を講じる。

(文書等管理に関する規則の整備)

第12条 ステーションは、文書等の登録・保管・廃棄に関し、前二条の趣旨に照らし必要な事項について規則を別途定め、これに基づき必要な措置を行うものとする。

第3節 職員及び委託先の監督

(職員に対する指導・監督)

第13条 ステーションは、第2章第1節及び第2節の各規定にかかる各事項を具体的に実践するために必要な事項について規則を別途定め、全ての職員にこれを遵守させるものとする。

- 2 ステーションは、職員が個人情報等を取り扱うに当たり、これが適切に行われるよう監督を行う。

(委託先の監督)

第14条 ステーションは、個人データの取扱いの全部又は一部を委託する場合は、委託事業者における個人情報保護へ向けた対応の状況等に照らし、委託を行うことの適切性を検討するとともに、委託事業者との間で業務委託における個人情報に関わる契約書を締結した上で提供を行うものとし、かつ、委託先に対しては適切な監督を行うものとする。

第4節 本人からの開示等の申請に対する対応

(本人からの請求に対する対応)

第15条 ステーションは、保有個人データについて個人情報保護法25条ないし27条の規程に基づき、開示及び利用停止等の申請が行われた場合は、これが個人情報に関する本人の権利に基づくものであることを十分に理解した上で、合理的な期間、妥当な期間でこれに適切に応ずるものとする。

(規則の整備)

第16条 ステーションは、前条の規定にかかる義務を適切に履行するため必要な事項について規則を別途定め、これに基づき必要な措置を行うものとする。

第5節 ステーションに対する相談・苦情への対応

(ステーションによる相談・苦情の対応)

第17条 ステーションは、個人情報の取扱に関する相談・苦情の適切かつ迅速な対応に努める。

- 2 ステーションは、前項の目的を達成するために個人情報相談窓口を設け、その他必要な体制の整備に努める。

第3章 個人情報管理に向けた体制

(個人情報管理)

第18条 ステーションに、個人情報管理責任者を置く。個人情報管理責任者は、ステーション管理者とする。

- 2 個人情報管理責任者は、個人情報の保護に関し、内部規則の整備、安全対策及び教育・訓練を推進し、かつ、周知徹底することを任務とする。
- 3 個人情報管理責任者は、この規則に定められた事項を遵守するとともに、個人情報の取得、利用、提供又は委託処理につき、全ての職員にこれを理解させ、遵守させるよう努める。
- 4 個人情報管理責任者は、個人データの安全管理措置について見直しや改善を行う。
- 5 個人情報管理責任者は、個人情報漏えい等の問題が発生した場合において、法人の理事長に報告・協議し、二次被害の防止対策を講じるとともに、個人情報の保護に配慮しつつ、可能な限り事実関係を公表するとともに、県・市の所管課に速やかに報告する。

(教育)

第19条 個人情報管理責任者は、業務に従事する職員に対し、個人情報にかかる個人の権利保護の重要性を理解させ、かつ、個人情報管理の適正で確実な実施を図るため、継続的かつ定期的に教育・訓練を行うように努める。

(施行)

第20条 本規程は 25年 4月 1日より施行する。